

勢いのまま

馬場 叶羽

25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
尾根筋にひと住まいたり夏化粧	グラファイティーアート地蔵の灼かれおり	降りみ降らずみ逢坂を夏の犬	逢引きのつぎつぎ見え隠れ涼し	損切りとして鼻先が滝になる	脊椎のメトポリスや夏の雨	夏蝶やロックンロール虹を踏む	みんな胎のなかに草いきれがにおう	ご覧がらんと青梅が落ちそうだ	脱力のキャベツ抱えて夏にいる	論争になめくじの身を反らしけり	美味そうやあらへんアレは闘牛や	鼻っ面言うんよ初夏の塔のこと	春空の初夏ならテディベアが泣いた	太陽に少年見たり麦の秋	竹の秋なり太陽のほうに墓	花杏耳のくずるるところを触る	猫の子猫の子地球に蓋をしてまわる	怒涛 問われて蝶の色なかりけり	でゅしやんぱっかん じーすぽっとは都市の塔	白子食うてアバンギャルドが泡を吹く	春園に絶頂ふたつ遠く街	谷のなか春泥いくつもが乾く	雪解の地図と壊れたビスケット	勢いのままフロリダへ猫の恋
象よ賢しき冬の耳して眠りおり	ひたすらに眠たき山を登りつつ	真夜中を面白くする寒さかな	わたくしは革命を待ち寒卵	闇鍋の闇より出でし頭かな	吊いのナイチンゲール月か霜か	人形に授乳服あり石路の花	生桃はゆうれいが食う森に橋	足裏の空洞みゆる橋の秋	こんな大花野が我が息子なのだろう	たましいのかたち鶏頭ならば燃ゆ	秋蝶のおそらくラカン帰りなさい	八月や心中坂と名付けられ	熱帯魚H O L I C そり立ちにけり	夏風邪のC a t a s t r o p h e K i s s かな	病人がひろびろ寝たり夏座敷	寺に来て竿にとまるや時鳥	乗降の船より遠くなる西日	爆笑の一点を見し暑さかな	轟音に遅れて蜈蚣出にけり	蟹の足積みあぐ爪の気ままかな	肉魚並べて人の暑さかな	カタコンベなら蝸牛彷徨す	夏の夜の闇の仏足石が座し	緑陰を吸ってためいき流行歌